



# ふじのくに文化情報センター通信 vol.19

様々な文化活動を支援する「ふじのくに文化プログラム推進事業補助金」の交付団体と、グランシップ館内の展覧会「めぐりアート+」の後期展示作品をご紹介します。

## 静岡県の文化芸術活動を応援！～ふじのくに文化プログラム推進事業補助金～

2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、静岡県の文化芸術活動をさらに振興・継承し、県内外へ発信していくため、県民の皆さんの幅広い文化活動・事業を支援する「ふじのくに文化プログラム推進事業補助金」。現在9つの団体の自立やステップアップに向けた活動を支援しています。

交付団体名	活動名
シズオカオーケストラ	持続可能な団体運営のための新体制づくりと情報発信
特定非営利活動法人 伊豆学研究会	文化財の調査担い手活動
浜松ジュニア・ユース邦楽合奏団	日本の伝統音楽体験による人材育成活動
アルテ・プラーサ	新たな地域の文化創造～異分野と協働したアートプログラム開発と地域拠点検討～
富士の山ビエンナーレ実行委員会	Fujinoyama ART HUB 運営計画
特定非営利活動法人 音楽の架け橋メセナ静岡	多世代にまたがる文化事業とまちおこし事業に関わるボランティアスタッフ確保のための調査事業と実践
うさぎプロジェクト	オペラ公演のためのスキルアップ勉強会
街カル実行委員会	文化講師&ものづくり作家への「活動の場」提供支援と情報発信事業
演劇ユニットFOX WORKS	多目的コミュニティスペース「Sketchbook Theater」運営及びメンバースキル養成

各団体、作成した活動計画をもとに事業を進めながら、年に3回程度、ふじのくに文化情報センターと、その進捗を共有、整理し、より充実したものになるよう、有識者を交え意見交換を行っています。どの団体も地域に密着したユニークな活動を展開する中、人材育成や組織力の向上にも力を入れています。今後の活躍にご期待ください。次年度事業の「ふじのくに文化プログラム推進事業補助金」募集は1月中旬より開始予定。

10月12日(土)に開催予定だった「ふじのくに文化情報フォーラム2019秋」は、台風19号の影響で中止となりました。次回のフォーラムは2020年2月11日(火・祝)を予定しています。

## グランシップ館内でいつでもアート鑑賞を！ めぐるりアート+

2019年度後期展示〈10月11日～2020年4月13日〉 佐藤 浩司郎『ぼくをわたしを さがして』

佐藤 浩司郎  
1967年 静岡県下田市に生まれる。1991年 大阪芸術大学卒業。キリンプラザ・コンテンポラリーアワード(1991)及び吉原治良賞(1992)入選。大阪府立現代美術センター(1992)、信濃橋画廊(1993/大阪)、牧神画廊(2007/東京)、CCC(2013/静岡)、金座ボタニカ(2015/静岡)など県内外で個展開催。伊豆ビエンナーレ(2013)、伊豆高原アートフェスティバル(2015)、小田原ビエンナーレ(2017)など地域の芸術祭に参加。2019年3月には、「めぐりアート静岡」の関連イベントとして、東静岡アート&スポーツ/ヒロバにて作品展示とワークショップを行った。

佐藤浩司郎はこれまで、被写体が空間に溶けてゆくギリギリまでピントを甘くした写真や、鈍い光を放ちながら周囲を影のように反映させる曇りガラスの積層など、確かにそこに存在し視覚を引きつけながら、幾重にも意味からすり抜ける事物の提示によって「絵画」のありかを探ってきました。今回は、リサイクルの衣料がはらむ喚起力を借りて、色彩と現実と想像力が入り交うインスタレーション(仮設的な空間構成)を発表します。  
「色って 絵って アートって なんだろう? 想像するってなんだろう?」  
グランシップのほぼ全フロアに作品を配した今回の展示には、そんな問いが隠されています。

めぐりアート+ キュレーター 白井嘉尚



### 【センター長の窓口相談日】

ふじのくに文化情報センター長が、文化芸術活動のお悩みやご相談を直接伺います！  
日程等の詳細は、ふじのくに文化情報センターホームページをチェック！



ささえる、つなげる、創造する  
**ふじのくに文化情報センター**  
FUJINOKUNI Art / Culture INFORMATION CENTER

グランシップ1階  
[TEL] 054-203-5721  
[E-MAIL] info@shiz-bunka.com  
[HP] www.shiz-bunka.com  
[Facebook] www.facebook.com/shiz.bunka/  
[Twitter] @fujinokunibunka **NEW**



# こどもに、大人に、きちんと伝えよう 地域の文化

文化芸術は人をつくり、まちをつくり、未来をつくります。  
県内各地で優れた文化活動を行っている団体をご紹介します。

## あかりアートの会

島田市

●美術(絵画・工芸等) ●代表/児玉耕一

### 人の心と川根の町に、やさしいあかりを灯す

「行燈の温かな灯りで、川根に人を呼び寄せたい」という思いから結成された、「あかりアートの会」。竹細工や切り絵、水彩画、絵手紙などの愛好家が集まり、製茶で使われていた和紙に着想を得て、和紙を使用した手作り行燈を始めました。毎年11月下旬に開いている「川根のぬくぬくあかり展」では、角型や円筒型にこだわらない独創的な行燈をはじめ、川根中学校の学生や有志の作品など、100点以上が家山駅前通りを灯し、初冬の風物詩になりつつあります。

地域と創るイベントが多く、SLで知られる大井川鉄道とは「お花見夜桜列車」を走らせて、乗客を行燈でおもてなし。地域資源を生かした活動が人を呼び、町を明るく元気にしています。



水彩画・手漉和紙工房を主宰する羽根田英世さんの指導のもとでテーマとアイデアを決めて、オリジナリティーあふれる行燈を創っています。

## 浜松ジュニア・ユース邦楽合奏団

浜松市

●音楽・文化支援(文化をささえる活動) ●代表/吉田理世

### 日本の伝統音楽を愛し、郷土音楽とともに伝え広める

「音楽の都」浜松市制100周年を機に結成。市内の小学2年生から高校生までのジュニア団員と大学生以上のユース団員が合奏練習で技術を磨き、地域のステージから和の美しい音色を響かせています。また、郷土音楽を尊び、失われかけている「遠州のわらべうた」の伝承活動にも意欲的に取り組んでいます。箏は日本文化を奏でる伝統の和楽器。音楽だけでなく、様々な日本文化に触れる機会をつくり、異世代が共に親しむことで心が元気になる活動を目指しています。

中高生は部活動と両立し、ユース団員は仕事や家事、育児をしながら楽しむなど、生涯学習の役割も。地域のコンサートから他都市との邦楽合奏交流へ、活動のステージは広がりをみせています。



コンサートでは、わらべ歌や、現代邦楽、ポップス曲なども披露。様々な演奏を通じて箏の魅力を発信し続けています。新規団員募集中!